

科目名 (科目番号)	日常生活活動学実習 (時間割参照)	教員名 沼尾夏葵, 他	学科等	理学療法	必修	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照	単位数	2	
			授業形態	演習	オフィスアワー	別紙参照	
授業概要	日常生活活動（ADL）の評価で用いられる各種指標や、疾患（障害）の特性に応じたADL評価および指導のポイントについて、演習を取り入れながら学習する。						
目的・目標	目的：疾患（障害）の特性に応じたADL指導ができるようになる。 目標：・ADLの評価に用いる各種指標の概要を理解し、実際に用いることができる。 ・疾患（障害）の特性に応じたADL評価や指導のポイントを理解し、実践できる。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	オリエンテーション ADLの概念、評価指標①	到達目標：ADLの概念の理解とBarthel Indexを用いた評価が実践できる。 学習内容：ADLの概念、Barthel Indexの特徴、構成、採点方法				
	2	ADLの評価指標②	到達目標：ICFについて説明できる。 学習内容：ICFの特徴、構成、採点方法				
	3	ADLの評価指標③	到達目標：FIMを用いた評価が実践できる。 学習内容：FIMの特徴、構成、採点方法				
	4	QOLの評価指標	到達目標：主要なQOLの評価指標について説明できる。 学習内容：主要なQOLの評価指標の特徴、構成、採点方法				
	5	ADLの質的評価	到達目標：・ADLの質的評価について、基本的な考え方が説明できる。 ・質的評価を実践できる。 学習内容：ADLの質的評価の概要、演習				
	6	ADLを支援する機器	到達目標：ADLを支援する基本的な機器について説明できる。 学習内容：「自助具・日常生活用具」「歩行補助具」「車椅子」の種類や役割				
	7						
	8						
	9	疾患別ADL指導の実際①	到達目標：疾患（障害）の特性に応じたADL評価や指導のポイントを理解し、実践できる。 学習内容：「脳卒中」「神経難病」「脊髄損傷」の各疾患（障害）の特性に応じたADL評価や、指導のポイント				
	10						
	11						
	12	疾患別ADL指導の実際②	到達目標：疾患（障害）の特性に応じたADL評価や指導のポイントを理解し、実践できる。 学習内容：「整形疾患」「下肢切断」「内部障害」の各疾患（障害）の特性に応じたADL評価や、指導のポイント				
	13						
	14						
15	疾患別ADL指導の実際③	到達目標：疾患（障害）の特性に応じたADL評価や指導のポイントを理解し、実践できる。 学習内容：実技テスト（詳細は別途指示）					
成績評価の方法・基準	対面時： レポート課題（40%：第1～8回各5%） + 実技テスト（60%） オンライン時： 授業の各回に課す課題（100%）						
教科書	①標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第7版 ②脳卒中の機能評価 SIASとFIM(基礎編)		鶴見隆正 他 編 千野直一 他 編著		医学書院 金原出版		
参考図書	①シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト ②CrossLink理学療法学テキスト 日常生活活動学		細田多穂 監修 白田滋 編		南江堂 メジカルビュー社		
教員からのメッセージ	・演習授業ですので、体を動かしやすい服装で参加してください(特に6～15回)。 ・一般病院等で勤務した理学療法士がこの授業を担当します。 ・オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知いたします。						